

## (5) 大用小学校

学 校 長 池上 みどり  
校内研究代表者 山崎 充子

### 1. 研究主題 「確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成」

### 2. 主題設定の理由

本校の児童は、豊かな自然と温かい地域の人達に見守られ、明るくのびのびと生活している。少人数の集団の中で真面目に取り組むことができ、友だちにも優しい。しかし、少人数がゆえに、短い会話で意思疎通がすんでしまい、自分の意見や考えをしっかりと言葉にしてみんなの前で発表したり、説明したりすることに課題のある児童が多い。また、他校との交流会ではなかなか自分を表現できないなど、自己表現力やコミュニケーション能力に課題がみられる児童もいる。

本校は平成 26 年度から完全複式校となり、複式授業展開の工夫と学び方の定着を図るために算数科授業のスタンダードづくりをしてきた。昨年度より一部の学年において複式が解消されたが、これまで培ってきた複式授業のスタイルを大切にし、落ち着いて授業に取り組むことができている。

平成 27 年度からは、国語科の授業のスタンダードづくりに取り組んできた。授業を充実させるために、友だちの意見や考えに対して自分の考えを発表する場面を多くし、コミュニケーション能力を高めてきた。しかし、算数科において学力テスト等で平均点を下回り、課題があることが分かってきた。これまでの課題に加えて算数科の課題を克服できるよう、29 年度より再び算数科を中心とした授業研究に取り組んでいる。構造的な板書、児童の学びや考えが見えるノート指導にも取り組み、その結果、すべての面で成果があったわけではないが児童は確実に学力が向上している。今年度も「一人学び」や「とも学び」を授業のなかに積極的に取り入れ、言語活動を活発に行う授業の研究に引き続き取り組む。引き続き基礎学力の定着を目指して授業研究や指導方法の工夫改善に努め、学年に応じた確かな学力の向上をめざしたい。また、帯タイムを活用し、放課後加力学習と連動させながら弱点の克服にも取り組んでいきたい。

思考力、判断力、伝える力の育成に役立てるよう教科学習と関連づけて研究を進めてきた NIE の活用は、昨年度から高知新聞社の推薦を受け本格的に取り組みを行っている。今年度もふるさと教育と関連づけながら、地域に目を向けた学習につなげていき、また、体験活動の良さを生かして学校の教育活動を地域に情報発信していける活動としていきたい。

#### 研究仮説

- ・ひとり学びやとも学びを授業の中に取り入れ、言語活動を活発に行う複式授業を展開することで、表現力やコミュニケーション能力が高まるであろう。
- ・複式学級等において指導法の工夫改善を行い、子どもの思考過程や言語活動を明確にした授業づくりを行えば、主体的に学び豊かに表現できる子どもが育つであろう。
- ・丁寧な学習指導を行うことで、基礎基本を確実に身につけることができる。基礎基本が身に付けば、問題が解けるようになり、算数科の苦手意識がなくなり、本校の課題解決につなげることができるであろう。

### 3. 研究の進め方と方法

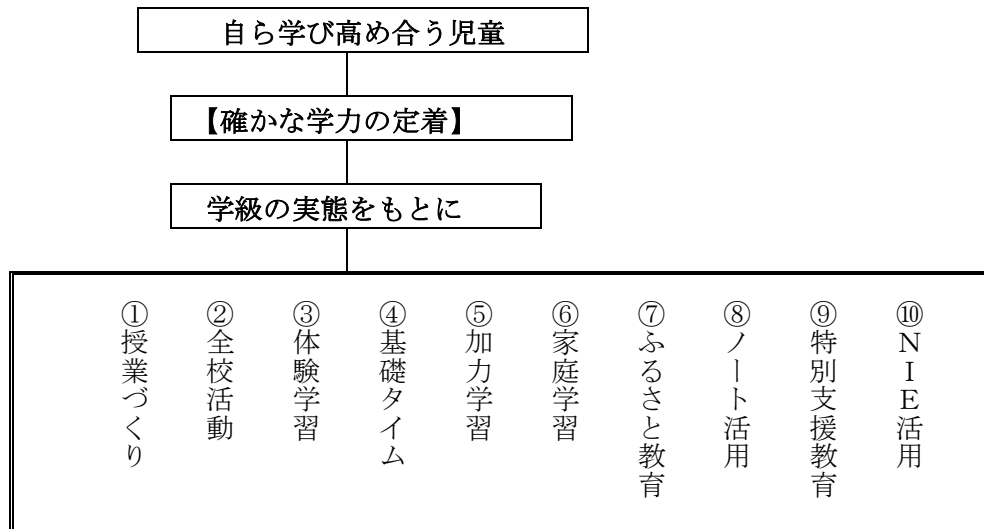
- ①毎月、原則として水曜日を校内研究日として計画的に研究を進める。  
ただし、研究推進に必要な場合は、臨時に研究日を設定する。

- ②研究日の司会と記録については、職員会の司会と記録同様に輪番制で担当する。
- ③研究の推進や検証に必要な研究授業を計画的に実施する。  
学習指導案を作成し、全教員で教材研究を行い研究授業に臨む。
- ④研究授業は水曜日に行い、全教員が参観し、反省会をその後行う。
- ⑤基礎学力の定着と学力の向上をめざす。
- ⑥学期に1回程度、各学級の実践を出し合う場を設け、学級の実態や教育実践について共通理解をする。児童の情報交換を行う。
- ⑦指導力を向上させるために、外部講師を招聘して研究の質を高める。
- ⑧四万十市複式教育研究会の活動に参加し、教育的力量を高める。

※校内研究推進にあたって共通理解しておくべきこと

- ①子どもの実態に基づいた教育実践を進める。
- ②へき地・小規模校の特性が生かせる特色ある教育活動の創造に取り組む。
- ③教育実践を互いに見つめ合い、検証し合いながら共に教師として高め合う研究をする。
- ④前年度までの実践を継承すると共により良い実践となるよう改善しながら研究を進める。

#### 4. 研究内容



##### ① 授業づくりの視点

- ・研究授業（算数科）を全学級が行い、主体的な児童の活動、教師の発問や評価の与え方を研究する。5/15…5年生 6/11…6年生 7/4…2・3年生  
10/11…なかよし学級 11/14…4年生 12/4…1年生
- ・言語活動を充実する（ペア学習、ふり返り、授業後の感想）
- ・資質、能力ベースの「めあて」の提示、統一した授業の流れやノート指導
- ・複式授業等の研究

##### ②全校活動

作文・新聞朝会、クロッキー朝会を通し、意見や感想などを出させる。

##### ③体験活動

縦割り班を活用し、リーダーを育て仲間づくりをしていく。地域の行事（片魚、常六との地域交流・まつり等）では児童主導で活動し、交流をする。

##### ④基礎タイム

算数科の基礎力向上をめざし、10分間学習を継続して行う。

##### ⑤加力学習

放課後30分程度、全教職員で取り組む。

⑥家庭学習

「家庭学習の手引き」をもとに基礎学力の定着や音読練習、授業へ向けての学習を習慣化させる。

⑦ふるさと教育

これまでの行事を基本にしながらふるさとの良さを発見する取組を行う。

講師を招聘し、地域について学習する。

⑧ノート活用

「ノートの書き方7つのきまり」をもとにノート指導を行う。教室にきまりを掲示する。

定期的にノートを掲示し、取組を共有し合う。各学年1名ずつのノートを掲示する。

⑨特別支援教育

全学級との交流学习を行う。給食、生活科、学校行事等での交流。

⑩NIE活用

新聞に興味を持ち、新聞に親しむ習慣をつける。

ワークホールに新聞コーナーを設ける。(高知新聞、毎日新聞、読売新聞)

新聞朝会を行う。はがき新聞、学校新聞、学級新聞づくりを行う。

読み取った資料をもとに、自分の見方、考え方を広げたり、深めたりする。

授業の中で活用する。高知新聞へ投稿する。

新聞から表現方法を学び、学習のまとめとして新聞づくりを取り入れる。

## 5. 今年度の成果(○)と課題(●)

○ノートづくり、構造的な板書を意識して授業ができた。

○ノートの掲示、板書交流を定期的に行うことができた。教師も児童も掲示したものを見合い、意欲づけになった。

○資質・能力ベースのめあてを意識して授業を行うことができた。子どもたちは1時間で何をするのかが明確にとらえられるようになり、主体的に学習に取り組むことができた。

○全教員で協力して加力指導ができた。

○家庭学習の時間が守れている数値が上がってきた。(家庭学習のてびきを意識)

○特別支援学級との交流学习が計画的にできた。

○ふるさと教育の年間計画を作成したことで、見通しを持って指導することができた。

○NIE 活用が定着してきた。各学級で新聞投稿や、新聞づくりに取り組むことができたことで、児童の表現力、読み取る力が向上している。

○全校活動(クロッキー朝会、作文・新聞朝会)を継続的に行うことで意見や感想を発表する力がついてきている。

●家庭学習の在り方を検討していくこと。(授業とのサイクル化も含め内容について検討していく。)

●読書の習慣づけを行っていく。(家庭の協力をお願いする。学校で本を購入する。)

●基礎タイムで使用するプリントの内容を学年、時期を考慮しながら実施する。